

令和元年度 小学校・中学校における

手話に関する 取組事例集



令和2年3月

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

はじめに

手話の普及推進を通じて、県民みんながお互いを大切にし、支えあう社会を実現したい。その理想を掲げて平成27年4月1日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

そして、この趣旨に則って、平成28年度から32年度（令和2年度）までの5年間の計画期間とする「神奈川県手話推進計画」が策定されました。

これを受け、県教育委員会では、児童・生徒の手話の学びの充実、教員向けの手話研修の充実など、手話を学ぶためのしくみづくりに取り組んでいるところです。

本事例集は、令和元年度に県内各学校で取り組まれた実践を、資料を提供していただいた学校の協力の基に作成しました。様々な活動をとおして取り組まれている手話の取組事例を参考に、各学校の実態に応じた手話に関する取組の充実を御検討くださるようお願いいたします。

結びになりますが、手話の学習をとおして、児童・生徒がお互いを大切にすることに気づき、支えあう関係を実現できるようになること。また、そうした理想に向けた取組の積み重ねにより、一人ひとりが互いの個性を尊重し、自らの人生や社会をよりよいものにしていくことができるという実感がもてるようになることを願っております。

神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課長

県内市町村の実践事例集 目次

◇小学校

<国語科・総合的な学習の時間>

- ・「調べたことを整理し、発表しよう～だれもが関わり合えるように～」
(藤沢市立明治小学校) 1

<特別の教科 道徳>

- ・「共に生きる心」(横浜市立元石川小学校) 2

<総合的な学習の時間>

- ・「わたしよし きみよし みなもよし」(川崎市立長尾小学校) 3
- ・「みんなが住みやすい町 富士見台」(川崎市立富士見台小学校) 4
- ・「福祉・手話」(川崎市立野川小学校) 5
- ・「手話教室」(相模原市串川小学校) 6
- ・「『みんなのために』 手話体験」(相模原市立若松小学校) 7
- ・「やさしい時間」(横須賀市立城北小学校) 8
- ・「手話教室」(横須賀市立岩戸小学校) 9
- ・「聴覚障がいについて知ろう」(横須賀市立津久井小学校) 10
- ・「手話教室」(茅ヶ崎市立緑が浜小学校) 11
- ・「やさしさのある社会をめざして～手話体験～」(厚木市立依知南小学校) 12
- ・「福祉体験『手話について知ろう』」(座間市立相模野小学校) 13
- ・「手をつなごう～福祉～」(平塚市立松延小学校) 14
- ・「だれもがくらしやすいまち」(大磯町立国府小学校) 15
- ・「手話体験」(松田町立松田小学校) 16
- ・「おもてなしの心^{ちょう} 調さたい」(箱根町立仙石原小学校) 17

<特別活動(学級活動・児童会活動)>

- ・「手話集会」(横浜市立緑小学校) 18
- ・「福祉教室『手話体験』」(綾瀬市立綾北小学校) 19

◇中学校

<特別の教科 道徳>

- ・「手話教室」（逗子市立逗子中学校） 20
- ・「手話講習会」（秦野市立鶴巻中学校） 21
- ・「全校道徳『HANDSIGN講演』」（小田原市立城南中学校） 22

<総合的な学習の時間>

- ・「福祉体験学習」（横浜市立矢向中学校） 23
- ・「福祉体験学習：手話（要約筆記）ゼミ」（相模原市立鶴野森中学校） . . 24
- ・「福祉体験学習」（相模原市立新町中学校） 25
- ・「ゼミ学習『手話を学ぼう』」（横須賀市立神明中学校） 26
- ・「福祉体験『手話』」（鎌倉市立玉縄中学校） 27
- ・「福祉体験
聴覚障がい者の理解と手話体験グループ」（平塚市立中原中学校） . . 28
- ・「福祉体験学習における分科会」（南足柄市立足柄台中学校） 29

<特別活動（学級活動・学校行事）>

- ・「手話・アイマスク体験」（横浜市立南が丘中学校） 30
- ・「創立 50 周年記念式典 全校合唱」（川崎市立西生田中学校） 31
- ・「手話合唱」（清川村立緑中学校） 32

国語科・総合的な学習の時間
「調べたことを整理し、発表しよう
—だれもが関わり合えるように—」

藤沢市立明治小学校



単元（題材）目標

- 関心のあること等から話題を決め、必要なことを調べて要点をメモすることができる。
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づく。
- 様々な障がいについて理解を深め、生活における工夫や配慮について調べる。

(1) 実施時期

令和元年9月中旬～

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 144名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任

(4) 実施内容

- 国語科「だれもが関わり合えるように 手と心で読む」を通じて、点字や思いを伝え合うことの大切さを学んだ。
- 発展学習として、障がいがある人にむけた配慮や工夫、思いや気持ちを伝える方法としての手話などについて本やインターネットで調べ、わかったことを発表し、共有する活動を行った。



(5) 成果

- 障がいのある人が、よりよい生活を送るための工夫や方法の一つとして手話があることを学び、関心と知識を持つことで誰かの役に立てることを知ることができた。また、点字と同様に、自分の気持ちや考えを伝えることの大切さをより学ぶことができた。

(6) その他

- 参観に来た保護者や他学年の児童の目にふれるよう、発表が終わったあとは各学級の廊下に資料を掲示した。

特別の教科 道徳 「共に生きる心」

横浜市立元石川小学校



単元（題材）目標

- 福祉体験的な活動を通して、障がいを理解し、共生社会に生きる子どもを育成する。
- よりよい生活を送るために、自分ができることは何事にも挑戦していこうとする態度を養う。

（1）実施時期

令和元年 11 月上旬

（2）対象（学年等・人数）

第 3 学年 63 名 小学校教員 2 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第 3 学年担任 2 名

外部講師：青葉区聴覚障害者協会 1 名、青葉区社会福祉協議会 1 名



（4）実施内容

①手話だけによる講話（各学級）

- ・簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）

②手話体験：各学級で手話実践

- ・講師 1 名（聴覚障害者協会の方）、手話通訳 1 名（社会福祉協議会の方）
- ・手話に関する基本的知識（色・濃淡・同じ・違う等）
- ・手話における拍手の仕方

③手話を介した講話：「聴覚障がい者の生活について」（各学級）

- ・聴覚障がいの方の生活において工夫していることや、手助けしてほしいことについての話を聞く。（手話通訳あり）

◎「各自が今後の生活の中でどのように生かしていくか」という視点から振り返る。

- ※相手のことをわかろうとする気持ちや、自分の生活をよりよくする工夫や態度を大切にしようとするような指導を心がけた。

（5）成果

○講師の話や手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

○手話に興味をもち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。

（児童感想 一部抜粋）

- ・「できることは、何でもやる。」という講師の先生のメッセージが印象的でした。いろいろなことに挑戦したいと思いました。

（6）その他

○人権週間の取組として学習し、感想を作文にまとめ、代表者が学校全体に発表した。



単元（題材）目標

- 自分たちの身の回りには、様々な立場の方が多く生活していることに気がつき、地域に暮らす方々との関わりを通して、自分自身の在り方、生き方を見つめ直し、他者とどのように関わっていくかを考えて生活しようとする。
- 探究活動Ⅰで、視覚、聴覚、身体障がい者の方々の日常の生活の楽しさや、日々どのようなことを感じて生活しているのか、パラスポーツがどのような性質をもっているスポーツであるのかを知り、誰でも幸せに生活できる社会の大切さに迫っていく。

（1）実施時期

令和元年 11月 21日（木）

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 2学級 計48名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任2名

外部講師：手話サークル山びこ 6名（ろう者…2名 健聴者…4名）



（4）実施内容

- 聴覚障がい者の生活、コミュニケーションの図り方について（学年全体）
 - 学年全体で聾者の方から話を聞く（手話通訳あり）
 - ◇日常でどのようなことや方法で情報を獲得しているのか
 - ◇ろう者の生活について
 - ・聞こえなくなった時期やどのようにして手話を学習してきたのか
 - ・日常で困ってしまう場面（寸劇…子どもたちにサポートの仕方を実践してもらう）
 - 福祉機器の説明
 - ◇視覚的情報機器について紹介
 - 手話体験
 - ◇各学級に聴覚障がい者1名、健聴者2名入っていただく。
 - ◇日常表現（あいさつ） ◇各教科の表現方法（4年時に学習する全教科）
 - ◇簡単な会話を実践
- （「算数が好きですか？」 「私は算数が好きです」一人ひとりとコミュニケーションをとる）

（5）成果

- 日常生活で気を付けなければいけない部分はあるが、誰でも、自分の生活の中で自分の幸せを見つけ、研鑽し生きていることに気づくことができた。
- 聴覚障がい者の日常について知ったり、手話は聴覚障がい者とのコミュニケーションを図る手段の一つであったりすることを知ることができた。
- 手話の楽しさを知り、子どもたちから「時間割を手話で伝えてほしい」「さようならを手話でやろう」と、自分たちの生活にも取り入れていた。



（6）その他

- 「障がい者の生活は大変だ」という思いにとどまることがないよう、誰もが幸せに生活できる環境、人間関係、相手のことを理解する大切さに焦点を当てて単元を進めた。
- 一人ひとりの生活の仕方が違うことから、その人の立場・視点に立って考えることの必要性について理解を深められたように感じている。

総合的な学習の時間 「みんなが住みやすい町 富士見台」

川崎市立富士見台小学校



単元（題材）目標

- 自分たちの住んでいる町には様々な立場の人が生活していることを調べ学習や体験活動を通して理解を深め、他の人を思いやったり、支え合って生きていこうとしたりする気持ちを育てる。
- さらに自分たちの町を住みやすくするためにどのような関わりができるのかを考えることを通して、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成する。

（1）実施時期

令和元年9月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 156名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：6名

外部講師：手話サークル「手の花」4名

（4）実施内容

- ①講演会：「聴覚障がいについて知ろう」（学年全体）
 - ・自己紹介 ・豊学校について ・聴覚障がいについて ・コミュニケーションの方法などについて、4名の方から話を聞く。（手話通訳あり）
- ②手話体験：「手話について学ぼう」（各学級に講師1名〈聴覚障がいの方〉）
 - （1）手話を使ってみよう
 - ・あいさつ、自分の名前 ・質問コーナー
 - （2）その他のコミュニケーション方法を知ろう
 - ・児童3人1組で活動 ・口話、身振り、空書を使いクイズ

（5）成果

- 簡単な手話の挨拶を知り、実際に試してみることで手話に対する理解が深まった。
- 聴覚障がいのある方とコミュニケーションをとることに難しさを感じていた児童も、手話だけでなく「口話、身振り、空書」を学び積極的に講師の方々に話しかける様子が見られた。
〈児童感想、一部抜粋〉
 - ・周りの人と助け合うことが、みんなが住みやすい町になるための第一歩だとわかった。
学んだことを通して、今自分にできることをしていきたい。

（6）その他

- 総合的な学習の時間に福祉学習を位置づけ、体験的な活動として視覚障がい者や聴覚障がい者、また彼らを支えるボランティアの方を講師に招き学習を展開した。

総合的な学習の時間 「福祉・手話」

川崎市立野川小学校



単元（題材）目標

- 聴覚障がいについて理解を深め、私たちにできることは何かを考える。
- 聴覚障がい者のコミュニケーション方法について調べる。
- みんなが幸せに暮らしていくことについて考える。

（1）実施時期

令和元年 10 月～11 月

（2）対象（学年等・人数）

第 4 学年 3 組 32 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭



（4）実施内容

- ① 「聴覚障がいと福祉」について知る。（本、映像教材などを利用）
 - ・もし私たちの耳が聞こえなかったら、どんなことが困るかを考える。
 - ・聴覚障がいについて知る。（困難なこと、生活の様子、町の工夫など）
 - ・聴覚障がい者のコミュニケーション方法について知る。
- ② 聴覚障がい者のコミュニケーションについて詳しく調べる。（本、PC、映像教材）
 - ・筆談、口話、手話の 3 種類があることを知る。
 - ・手話についてさらに調べ、簡単なあいさつなどいくつかの手話を覚える。
- ③ 調べたことを発表する。
 - ・「野川のつどい」というクラスブース発表型の全校行事で、「聴覚障がい者と福祉」というテーマで学習の成果を発表した。手話体験などを交えながら、同学年児童のほか、異学年、保護者、地域の方々に向けて発表した。

（5）成果

- 聴覚障がいについて調べることで、福祉についてより理解を深めることができた。
- 特に手話の学習は、児童の興味関心を高め、様々なコミュニケーション方法に親しんだり、誰もが幸せに暮らせるまちをつくる方法について考えたりすることにつながった。

（6）その他

- 今後、外部講師などを招き、手話についてより一層理解が深められる機会があると良いと思う。

総合的な学習の時間 「手話教室」

相模原市立串川小学校



単元（題材）目標

- 様々な障がいについて理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。
- 一人ひとりが、かけがえのない存在であることを理解し、学級の活動に生かす。

（１）実施時期

令和元年10月4日（金）

（２）対象（学年等・人数）

第4学年 34名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1名

外部講師：講話講師（ろう者）1名、通訳者1名、講話講師（難聴）1名
要約筆記者（筆記通訳サークルもみじ）3名

（４）実施内容

①講演会：「聴覚障がいについて」【全体会】（手話通訳あり）

- ・聴覚障がいの方が困ることについて、聴覚障がいの方から話を聞く。

②手話体験：手話実践

- ・聴覚障がいの方 講師1名 手話通訳者1名
- ・簡単な会話（あいさつ、自分の名前等） ・手話に関する基本的知識
- ・自分の名字を手話で伝える ・手話における拍手の仕方

◎「各自が今後の生活の中でどのように生かしていくか」という視点から振り返る。

※自分から相手に伝えようとする気持ち、また、相手が伝えようとすることを
わかってもらう気持ちを大切にしようとするような指導を心がけた。

（５）成果

- コミュニケーションツールとしての手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- 手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。
〈児童感想 一部抜粋〉
 - ・今、自分が当たり前に行っていることは誰かにとっては当たり前ではない。当たり前に行っていることに感謝し、できそうなことから取り組んでいきたい。

（６）その他

- 次回実施する際は、保護者にも参加してもらえるように、学級便りなどで呼びかけていきたい。

総合的な学習の時間 「『みんなのために』手話体験」

相模原市立若松小学校



単元（題材）目標

*年間学習テーマ 「みんなのために」 1学期テーマ「助けが必要な人のために」

○身の周りには、様々な人が生活しており、その方の思いや願いを理解しつつ、共に協力しながら生きていこうとする態度を育てる。

(1) 実施時期

令和元年7月10日（水）

(2) 対象（学年等・人数）

第4学年 66名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：2名

外部講師：6名 市社会福祉協議会職員1名

(4) 実施内容

①講演会「聴覚障がいについて」（手話通訳あり）

- ・聴覚障がいの方の生活の様子や困っていること
- ・生まれつき聴覚障がいのある方と中途障がいの方とで手話が使えたり、使えなかったり等の違いが出ること
- ・聴覚障がいの方が困っていそうときには勇気をもって手助けしてほしいこと

②手話体験

- ・簡単な会話（あいさつ、ありがとう、等）
- ・手話に関する基礎知識
- ・指文字による五十音の表し方
- ・自分の名前
- ・自己紹介を互いに行う

③要約筆記体験

- ・災害時の避難所での放送アナウンスの大事な部分を書き出して聴覚障がいの方に分かりやすく伝えられるようにする。

(5) 成果

- 聴覚障がいの方の実際の話から、どんな時に困るのかを具体的に知ることができ、相手の立場に立った考え方ができるようになった。
- 知らない方に声をかけることに躊躇していたが、困っている人を見かけたら「助けたい」という思いが強くなっていった。
- 手話に興味を持ち、楽しく自分の名前や友だちの名前を覚えると共に、その後の学習においても聴覚障がいの方が手話の他にどのようなツールで生活を豊かにしているのか調べ、発表し合うことができた。

(6) その他

- 視覚障がい者理解のための講演、アイマスク体験も同時開催した。保護者への参観も呼びかけた。

総合的な学習の時間 「やさしい時間」

横須賀市立城北小学校



単元（題材）目標

○初歩の手話を学びながら、耳の不自由な人の生活やコミュニケーションの方法について知り、私たちにできることを考える。

（１）実施時期

令和元年 6 月

（２）対象（学年等・人数）

第 4 学年 93 名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第 4 学年担任 3 名 特別支援級担任 1 名

外部講師：横須賀市聴覚障害者協会・横須賀手話指導勉強会より 4 名

（４）実施内容

- ①健常者と聴覚障がいを持つ方に教室に来てもらい、見た目どちらの方が聴覚に障がいがあるのかを判断する。
⇒聴覚障がいを持つ方は、周りの方に気付かれにくいということを知る。
- ②日常生活の中で、周りに聞こえてくる音を発表する。
⇒周りの音がすべて聞こえなかったら、生活の中で困ることについて考える。
- ③聴覚障がいを持つ方が日常の生活の中で困ることを知る。
⇒「光」や「振動」で知らせる道具を使うなどの工夫をしていることを知る。
- ④聴覚障がいを持つ方とのコミュニケーションの方法について考える。
⇒身ぶり・手ぶり、筆談、口話、筆談、空書、指文字などがあることを知る。
- ⑤口話や身ぶりで言葉をあてるゲームをしたり、手話のあいさつや自分の名前を指書きできたりとコミュニケーションをとる方法を体験した。
- ⑥講師の先生から、子どもたちでも手助けできることをお話していただいた。

（５）成果

- 聴覚に障がいを持つ方の生活の様子について、ご本人たちから話を聞いたことで、その様子が実感でき、自分たちにできることを考えるきっかけとなった。
- 教えていただいた手話や指書きなどにも興味を持ち、手話を使った歌に挑戦したり、集会の際に全校で紹介したりと積極的に活動できた。

（６）その他

- 車いす体験、視覚障がいを持つ方とのふれあい、視覚障がいを持つ方の誘導體験、盲導犬の学習なども行い、様々な立場の方の思いにふれることで、自分たちにできることを考えそれを実行する活動につながった。

総合的な学習の時間 「手話教室」

横須賀市立岩戸小学校



単元（題材）目標

- 自分とは異なる立場の人がどのようなことに困っていて、どのような助けを必要としているのかを知る。
- 岩戸の町に住む人々が気持ちよく過ごすために必要なことや大切なことを考える。

（1）実施時期

令和2年1月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第3学年 57名 小学校教員 3名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：3年担任 2名 支援級担任 1名

外部講師：横須賀市聴覚障害者協会 1名、横須賀手話指導勉強会 1名

（4）実施内容

①横須賀市聴覚障害者協会の方のお話

- ・子どもの頃のお話
- ・日常の生活で困ること など

②聴覚障がい者の方とコミュニケーションをとる方法

- ・手話 ・口話 ・筆談 ・身振り、手振り など

③手話体験

- ・手話でのあいさつ ・手話に関する基本的知識 ・指文字 など

（5）成果

○聴覚障がい者の方とコミュニケーションをとる方法は手話以外にもあることを知り、「大切なことは伝えようとする気持ちかな。」と考えている児童がいた。

○手話での簡単な挨拶を覚え、さらにスポーツや食べ物を表す手話などについて、図書館などで自主的に調べている児童がいた。

○岩戸の町を、聴覚障がい者の方も気持ちよく過ごせる町にするにはどうすれば良いのか考えている児童がいた。

（6）その他

○総合的な学習の時間で手話や盲導犬、点字、要約筆記、車いすなどについてグループに分かれて、引き続き調べていった。

総合的な学習の時間 「聴覚障がいについて知ろう」

横須賀市立津久井小学校



単元（題材）目標

- 聴覚障がいについて知り、その関わり方を考えることができる。
- 手話について知り、聴覚障がい者に対する理解を深める。

（1）実施時期

令和2年2月上旬

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 54名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：特別支援学級担当1名



（4）実施内容

- ①耳が不自由な人との関わり方を考える。
 - ・ジェスチャー、筆談、読唇、空書等の方法があることを知る。
- ②耳が不自由な人はどんな生活をしているのか考える。
 - ・手話を使わずに伝えてみる。
 - 口話や表情・ジェスチャー等を使えば伝えることができる。
 - ・ろう者の体験の話を聞き、その生活について知る。
- ③簡単な手話を使ってみる。
 - ・指導者の手話を見て伝えたいことを想像する。
 - ・あいさつ・数字・気持ち等を表す手話を知り、練習する。
 - ※各時間の導入では、指導者は声を出さずに手話で話した。

（5）成果

- 手話の方法よりも、自分にできる関わり方を考えさせることに重点を置いたことで、耳が不自由な人と積極的に関わってみたいという感想をもった児童が多かった。
- 手話に興味をもち、授業後も児童同士で練習したり指導者に手話で挨拶したりする姿が見られた。

（6）その他

- ろう者と関わりのある本校教諭が指導を行ったことで、身近な話題として考えることができた。

総合的な学習の時間 「手話教室」

茅ヶ崎市立緑が浜小学校



単元（題材）目標

- 障がい者が安心して暮らせるようにするために自分にできる活動を考え、共によりよく生きようとする資質や能力を身に付ける。
- 体験活動や調べ学習を通して、障がい者の立場を理解し、自分たちの町におけるよりよい暮らしに係る支え合いや共に生きることの意義について考えることができるようにする。

（1）実施時期

令和元年 11 月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第 4 学年 60 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：市内ボランティアサークル「松の会」4名、茅ヶ崎市聴覚障害者協会 3名

（4）実施内容

- ①講話：「聴覚障がいについて」
 - ・聴覚障がいの方が困ることについて、4名の方から話を聞く。（手話通訳あり）
- ②手話体験：各学級で手話実践
 - ・各学級に講師 4 名（聴覚障がいの方）、ボランティア 3 名
 - ・簡単な会話（あいさつなど）
 - ・手話に関する基本的知識

（5）成果

- 講話や手話体験を通して、聴覚障がい者の感じ方や考え方を理解し、その人の立場に立って考えることができた。
 - 障がいのある人と共に暮らしていくために、自分にできることを考え、実践しようとする意欲を高めることができた。
- 〈児童感想 一部抜粋〉
- ・耳が不自由だと地震など、災害時にとても不安になるだろう。災害時には自分も余裕がなくなるかもしれない。でも、困っている人を見かけたら声をかけようと思う。少しでも他人を気に掛けることができれば、助かる命があると思う。

（6）その他

- 保護者にも参観してもらえよう、「学校へ行こう週間」に実施した。（15名参加）

総合的な学習の時間

「やさしさのある社会をめざして～手話体験～」

厚木市立依知南小学校



単元（題材）目標

- 私たちの身の回りの福祉に興味をもち、進んで関わり合おうとする態度を育てる。
- 耳の不自由な方とコミュニケーションをとる方法を理解する。

（1）実施時期

令和元年6月25日（火）

（2）対象（学年等・人数）

第4学年81名（1組41名、2組40名）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：厚木市手話サークル あゆの会（聴覚障がいの方1名、手話通訳者1名）

（4）実施内容

- ①講話「聴覚障がいの方の生活」……困っていることや、生活の工夫について
- ②聴覚障がいの方とのコミュニケーションをとる方法について
口話、空書、身振り、筆談など（ジェスチャーゲームで体験しながら）

③手話体験

- ・手話の基本的な知識
- ・簡単な会話、あいさつ
- ・「依知南小学校」を表す手話を知り、自己紹介に挑戦する。

④質疑応答

- ・児童の質問に丁寧に答えていただいた。

⑤ふり返り

- ・体験学習実施後、感じたことや気づいたことをまとめた。

〈児童の感想：抜粋〉

- ・手話には、それぞれ意味があって、分かりやすかったです。
- ・手話しか耳の不自由な人に伝わらないと思っていたけれど、空書や口話でも伝わることを初めて知りました。
- ・いろいろな人と会話ができていいなと思いました。
- ・聴導犬など、人を助ける犬がたくさんいることが分かりました。



（5）成果

- 「話すことができないってどういうことだろう。」と思っていた子どもたちが、優しく生き生きと手話で話しかけてくれる講師と接し、「音声がなくとも伝わるのだ。」と感ずることができた。あいさつや学校に関する手話を教わり、一生懸命に手を動かし、コミュニケーションをとろうとしていた。

（6）その他

- 体験学習後、手話について調べたグループが発表する授業を行った。

総合的な学習の時間 「福祉体験『手話について知ろう』」

座間市立相模野小学校



単元（題材）目標

- 共に生きよう～福祉体験を通して～
- ・手話体験を通して聴覚障がい者の生活を学び、自分たちにできることを考える。

（１）実施時期

令和元年10月18日（金）

（２）対象（学年等・人数）

第4学年91名（3クラス）

（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任 3名

外部講師：座間市内ボランティアサークル「星の会」6名



（４）実施内容

①聞こえない障がいについて

- ・聴覚障がいの特性や日常生活で困っていること、聞こえない人とのコミュニケーションの取り方など、通訳してくれる人を通じてお話していただいた。

②手話体験

- ・手話でのあいさつの仕方や会話、自分の名前の表し方など、一つ一つ丁寧に教えていただき、手話の仕方を学ぶことができた。また、連合音楽会で歌う「お陽さまになって」の曲を手話でどう表すか教えてもらい、曲に合わせて手話をしながら合唱を行った。

（５）成果

- 聴覚障がいの特性やその方が日常生活でどんなことに困っているか理解し、聴覚障がい者の人がよりよい生活をするために手話が必要であるということを感じることができた。

- あいさつの仕方や会話、名前の表し方など楽しみながら活動を行い、手話についての興味を深めることができた。



総合的な学習の時間 「手をつなごう～福祉～」

平塚市立松延小学校



単元（題材）目標

- 学習を通して、手話に関心を持ち、聴覚障がい者の生活について考える。
- 学習を通して、今後自分にできることは何か考える。

（1）実施時期

令和元年6月～12月

（2）対象（学年等・人数）

第4学年2組29名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

担任教諭 1名

（4）実施内容

- 手話を知ろう
手話の必要性や種類について知る。図書室にある手話に関する本から必要な情報を得る。
- 指文字を知ろう
指文字表を使って自分の名前を表す。
- 手話クイズをしよう
動物などの簡単な手話を学び、手話クイズを出し合う。

（5）成果

- 総合的な学習の中で福祉について取り組んできたため、手話を生活の中で使う人々がいることを自然と受け止め、自分自身も手話について知りたいと興味を持って学習に取り組む児童が多くいた。
- 一方、自分自身で表現しないと相手に伝わらないものでもあるため、手話の表し方の難しさを感じる児童もいた。
- 自分の名前を指文字で表わせることを知り、手話を身近に感じる児童もいた。

（6）その他

- 総合的な学習の福祉に関する取組の中で最初に体験活動を行った経緯があるが、手話体験を取り入れることをしなかったため、その後の個人での調べ学習において手話に取り組む児童が少なかった。体験の中に手話体験を入れておくことで、さらに手話に興味を持つ児童が増えたのではないかと感じた。また、学習の中で実際に手話について調べ学習にした児童がいたため、講師の方を招聘するなど、学習に広がりを持たせることも必要であったのではないかと考える。

総合的な学習の時間 「だれもがくらしやすいまち」

大磯町立国府小学校



単元（題材）目標

- 自分たちの周りには様々な人がいて、それぞれに生活を送っていることに気付く。
- 障がいがある人の生活や気持ちに触れることにより、誰もが幸せに生活するにはどうしたらよいかについて考える。
- みんなが共に幸せに暮らせるように、日々の生活の中で自分ができることを実践していかうとする。

（1）実施時期

令和元年10月18日（金）

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 104名 教諭3名



（3）指導者（教諭・外部講師等）

大磯町社会福祉協議会 ボランティア手話の会「磯の会」9名

（4）実施内容

- ① 講演「視覚障がいについて」
 - ・目の不自由さについての説明
 - ・補助道具の紹介（時間になるとライトが光るアラームなど）
- ② 手話体験
 - ・口語でのコミュニケーションゲーム
 - ・日常で使う手話の紹介
 - ・身振り手話による劇
 - ・児童一人ひとりの名前、手話での表し方
- ③ 質疑応答

（5）成果

- 手話は、そのものの様子やイメージから作られているものも多いことに気づき、様々な人がコミュニケーションをとるためのツールの一つとして、手話への興味が高まった。

総合的な学習の時間 「手話体験」

松田町立松田小学校



単元（題材）目標

- 手話が耳の不自由な人と健常者をつなぐ言語であることを理解し、相手を思いやる気持ちを育てる。
- 耳の不自由な人たちの気持ちを理解し、手話を通じて交流を図る。

（1）実施時期

令和2年1月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第4学年 65名、教諭2名、保護者4名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第4学年担任2名

外部講師：松田町ボランティアサークル「さくらの会」4名、松田町社会福祉協議会：1名

（4）実施内容（全8時間）

- ①手話入門講座（手話通訳有り）
 - ・聞こえないと困ること、聞こえない人とのコミュニケーション方法について考える。
 - ・ジェスチャーで普段の動きを表す。・手話の挨拶を覚える。
- ②手話体験（手話通訳有り）
 - ・指文字で50音を表す。・指文字で自分の名前、教科を覚える。
- ◎手話は、手だけでなく顔を表情や口の動きなどからも読み取る。そのため、表情や口をしっかり動かすことを意識するように指導した。
- ③～⑦ 手話を通して学んだことを追究し、発表する。
- ⑧ビデオ視聴（まとめ）

（5）成果

- 手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を表現できるようになった。
- 聴覚障がい者に対する理解を深め、今後、自分たちにもできることは何か考えることができた。

〈児童感想〉

- ・耳の不自由な人が、とても笑顔でいることに驚いた。笑顔でいられるのは、みんなと会話ができるからだと思った。手話は、耳が聞こえない人を楽しくしてくれる、嬉しくなるものだと思った。

（6）その他

- 講師、聴覚障がい者の方々を招いて手話体験を行ったことで、より聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

総合的な学習の時間

「おもてなしの心 ちょう 調さたい」

箱根町立仙石原小学校



単元（題材）目標

- 福祉について主体的に調べることを通して、自分にできることを考える。
- 箱根町に住む人について調べることを通して、地域の魅力を知る。
- 自ら課題を設定し、課題に合った方法で調べることができる。

（1）実施時期

令和元年 11 月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第 4 学年 14 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第 4 学年担任

外部講師：手話サークル「ドリーム」 2 名、箱根町社会福祉協議会 2 名

（4）実施内容

①講義「聴覚障がいについて」

- ・聴覚障がいについての基礎知識
- ・手話についての基礎知識
- ・聴覚障がいの方とのコミュニケーション手段

②体験授業

- ・あいさつに関する手話表現
- ・イヤーマフを利用した聴覚障がい体験



（5）成果

- 児童は聴覚障がいについて主に本やインターネットを利用して調べを進めたが、それだけでは自分たちの身近なこととして捉えることが難しかった。手話について普段から見識を深めている方のお話を聴かせていただいたことで、聴覚障がいの方を身近に感じることができ、より主体的に学習に取り組むことにつながった。

（6）その他

- 単元全体を通して、社会福祉協議会の方にご協力いただきながら学習を進めた。手話学習に関しても、社会福祉協議会の方が窓口となって、サークルの方につなげていただくことができ、ありがたかった。

特別活動（児童会活動） 「手話集会」

横浜市立緑小学校



単元（題材）目標

- 手話に興味をもち、親しむ。
- 校歌を手話で歌おうとする。

（1）実施時期

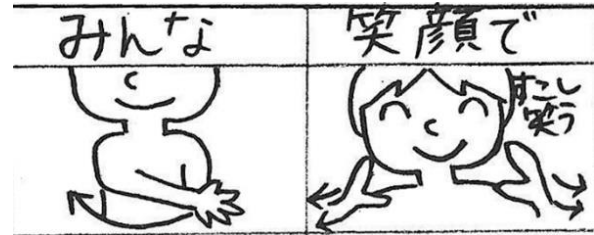
令和元年 12 月中旬

（2）対象（学年等・人数）

全校児童 911 名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

ボランティア委員会担当教諭 3 名



（4）実施内容

○10 年前、ボランティア委員会（第 5 年年 2 名）が、地域の方に校歌を手話で歌う方法を教えてもらった。手話をイラストにして全校児童に配った上で、ボランティア委員が全クラスに行き、手話の仕方を教えた。その後の手話集会で、全校児童が手話で校歌を歌った。この取組が現在まで続いている。

○手話集会では校歌の他に、手話での自己紹介や簡単な手話の紹介、手話クイズを行った。また、例年は体育館で行っていた取組だが、手元をしっかりと見てほしいという意見があり、予め録画した動画をテレビで放送した。ボランティア委員はテレビ放送中、各クラスへ行き、一緒に手話をやって見せたりアドバイスしたりした。



〈絵・写真〉校歌の手話のイラスト（上）

1 年生に校歌の手話を教えるボランティア委員（中）
手話集会当日の様子（下）

（5）成果

○校歌にある約 30 種類の手話と、手話の紹介やクイズなど約 10 種類の手話に親しむことができた。低学年でも興味をもてるように、「アンパンマン」などの語を見童が選んで紹介していた。

○10 年間続いている取組なので、学年が上がるにつれて手話に対する関心が高まると同時に、校歌を手話で歌う技能が高まっている。

特別活動（学級活動） 「福祉教室『手話体験』」

綾瀬市立綾北小学校



単元（題材）目標

○障がいのある方の理解を深め、お互いを尊重できる思いやりの心を育てる。

（1）実施時期

令和元年12月中旬

（2）対象（学年等・人数）

第1学年79名 第2学年86名（計165名）
小学校教員6名



（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：各学年担任教諭 6名

外部講師：1学年 ほほえみサークル 3名

2学年 聴覚障害者協会 1名、手話サークルあやの会 3名



（4）実施内容

①講演と実演：「聴覚障がいについて」各学年教室

- ・聴覚障がいの方が日常生活で工夫されていること、困ること、聴覚障がいの方に会ったらどんなふうにしたらよいかということについて、4名の方から話を聞いた。（手話通訳あり）



②手話体験：各教室

- ・クラスごとに45分の授業の中で手話の体験もさせていただきました。
- ・講師1名（聴覚障がいの方）ボランティア3名（手話サークルあやの会）
- ・簡単なあいさつ（おはよう、ごめんなさい、こんにちは、こんばんは、ありがとう、ばいばい）
- ・あいうえおの指文字
 - ・1年生は（よろしくおねがいします、わかりました、わかりません、自分の名前、最後に「さんぽ」を手話で合唱）

（5）成果

○2年生は、昨年度の手話体験の内容を覚えており、自分の名前を手話で行うことができていた。そのため、とても集中して話を聞くことができ、手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。

○事前に指文字のプリントを配付して、自分の名前を指文字でできるようにしたことで、手話に対する意識が高まった。



特別の教科 道徳
「手話教室」

逗子市立逗子中学校



単元（題材）目標

- 聴覚障がいを知り、障がいを近くに感じられるようにする。（道徳：寛容）
- 手話に興味を持ち、聴覚障がいを理解する。（道徳：相互理解）

（1）実施時期

令和元年12月中旬～令和2年1月上旬

（2）対象（学年等・人数）

第3学年118名（各クラス毎3回実施）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 1名

（4）実施内容

- 耳が聞こえないとは
- なぜ手話が必要なのか
- 手話体験 あいさつ・指文字・自己紹介
- 聴覚障がい者がしてほしいこと
- 振り返りの記入

（5）成果

- 手話に興味を持ち、指文字を使って自己紹介ができるようになった。
- 聴覚障がいを知り、「あきらめずに」伝えることの大切さを理解した。

〈生徒感想 一部抜粋〉

- ・身内に耳の聞こえない人がいるので、今度自己紹介してみようと思った。
- ・耳の聞こえない人の生活は大変だけど、伝わると嬉しくなるからもっと覚えたい。
- ・手話も一つの言語であり、覚えるべきものだと思った。
- ・理解するのは難しいけれど、聴覚障がいの人たちが過ごしやすくなったらいいと思った。
- ・耳の聞こえない人がいたら、あきらめずに伝えようと思った。

特別の教科 道徳 「手話講習会」

秦野市立鶴巻中学校



単元（題材）目標

- 手話の学習をすることを通して、人とのコミュニケーションの大切さを学び、相手の気持ちを理解しようと努力する態度を養う。
- 聴覚障がいを持たれる講師の方から直接手話を学ぶことで、障がいを持つ人に対する理解を深め、共に生きることの大切さを知る。

（1）実施時期

令和2年1月24日（金）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年 134名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第1学年所属 6名

外部講師：市内ボランティアサークル「手話サークル秦の会」 16名

（4）実施内容

①講演

- ・聴覚障がいの体験談
- ・コミュニケーションの方法
- ・日常生活や災害時に中学生に（聴覚障がい者を助けるため）とってほしい行動

②手話の実践

- ・声のかけ方
- ・手話に関する基本的知識
- ・自分の名前を手話で話す

*講習会后、アンケートを実施し一人一人に手話体験の振り返りをさせ、今後の生活の中でどのように生かしていくか考えさせた。

（5）成果

- 聴覚障がいを持たれる講師の方から直接手話を学び、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。
- 手話に興味・関心を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前、拍手の仕方を学べた。

〈生徒感想 一部抜粋〉

- ・聴覚障がい者の人がどれだけ苦労して、手話のひらがなや漢字を覚えたのかということが分かった。聴覚障がい者の方を見かけたら、ジェスチャーなどをして話しかけたいと思う。

特別の教科 道徳
「全校道徳『HANDSIGN 講演』」

小田原市立城南中学校



単元（題材）目標

○思いやりを持って人と接する態度や、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める態度を育てる。

(1) 実施時期

令和元年6月21日（金）

(2) 対象（学年等・人数）

全校生徒（179名）、保護者（10名）、教職員（18名）



(3) 指導者（教諭・外部講師等）

HANDSIGN

(4) 実施内容

- 手話でメッセージを届けるボーカル&手話パフォーマーとして活動している『HANDSIGN』を講師に招き、体育館にて、『僕が君の耳になる』のミュージックビデオ映像を見る。
- 『HANDSIGN』に手話ダンスを披露していただいた後、手話ダンスのレクチャーを受ける。
- その後さらに、『HANDSIGN』による手話パフォーマンスライブが行われる。
- 生徒は、教室に戻ってから、振り返り及び感想を書く。



(5) 成果

- 手話パフォーマンスライブ（歌とダンス）を通して、手話を身近に感じる事ができた。
- 手話ダンスを通して、歌詞を手話で表現することができた。
〈生徒の感想から（抜粋）〉
 - ・手話を覚えて世界中の人と話したいと思った。
 - ・音楽も手話を交えることで耳の聞こえない人にとって楽しめる物になるので素晴らしいと思った。
 - ・ダンスを交えたのでとても手話が楽しく覚えやすかった。

(6) その他

- 保護者にも参観の通知を配付し、参加していただくことができた。

総合的な学習の時間 「福祉体験学習」

横浜市立矢向中学校



単元（題材）目標

○福祉ボランティアの基礎・基本を学ぶ。

- ・講師の方々の思いや活動の実際についての話を聞くことで、ボランティア活動の内容や心情について学ぶ。
- ・体験活動を通して、ボランティア活動ごとの基本的活動やそれぞれの意味を学ぶ。

（１）実施時期

令和元年 12 月 3 日（火）

（２）対象（学年等・人数）

第 1 学年 263 名（内 80 名が「手話プログラム」を受講）



（３）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1 名（福祉体験学習「手話プログラム」担当）

外部講師：手話サービス連絡会 3 名、社会福祉協議会職員 2 名

（４）実施内容

①「手話プログラム」を含む 6 つのコースについて、実演を交えつつ学年生徒全体に紹介

②学年全体に「手話を楽しく学ぼう！」配布

③手話体験（「手話プログラム」受講者 80 名）

- ・当事者講師 1 名（聴覚障がいの方）、手話通訳 2 名
- ・聴覚障がい者の日常についての講話
- ・自分の名前を手話で表す（事前の宿題）
- ・簡単な会話
- ・指文字による 50 音の表し方
- ・手話での話しかけ方
- ・手話に関する基本的知識
- ・手話における拍手の仕方
- ・教科や部活動の表現

④振り返りレポート

自分が体験した学習について、未体験の人にも伝わるようにまとめる

（５）成果

○よりよい社会にしていけるために自分は何ができるかという視点で、生徒一人ひとりに意識の変化があった。

○「困っている人に声を掛ける勇気を持ちたい」、「障がいの有無に関わらず、みんなが平等に楽しく暮らせる社会にしたい」などの声があった。

総合的な学習の時間

「福祉体験学習：手話(要約筆記)ゼミ」

相模原市立鶴野森中学校



単元(題材)目標

- 課題解決学習の基礎基本として「見通しを持つ力」「振り返る力」「まとめる力」「発表する力」の実践力を育む。
- 身体にハンデがある方々の体験談を伺い、実際に体験学習をすることにより他者との共存を図っていく能力や他者を思いやる心、そして感謝する心を育み、福祉への見方・考え方を深める。

(1) 実施時期

体験当日：令和元年6月26日(水)

*平成31年4月17日～19日(事前学習) 令和元年7月3日～10月21日(事後学習)

(2) 対象(学年等・人数)

第1学年145名のうち30名

(3) 指導者(教諭・外部講師等)

本校教諭：第1学年所属1名

外部講師：社会福祉協議会より派遣 手話講師2名、要約筆記講師4名

(4) 実施内容と成果の発表

○事前学習

- ・事前学習をはがき新聞にまとめ、お礼状の裏面に添付し外部講師の方にお渡しする



○体験当日

①講話「聴覚障害者の理解」

- ・見た目で見えないハンデの困り感、理解してほしいこと
- ・コミュニケーションをとる方法…手話以外にも方法は色々ある

→(1)空書 (2)口語 (3)指さし (4)身ぶり (5)身ぶり+口語 (6)筆談

②手話体験「基本的な練習」

- ・手話する側→「わかる」「わからない」「もう一度お願いいたします」「そう」「違う」等
- ・受ける側→手話で反応する、拍手は相手を称えているとは分からない等の諸注意

③要約筆記体験(略)

○事後学習

- ①ポスター(補助資料)作成、学級と学年選抜においてプレゼン共有
- ②ゼミごとに掲示

(6) その他

- 相模原市立相模大野図書館と連携し、さらに国語科・美術科とも教科を横断したカリキュラム・マネジメントを意識した活動を実践した。
- 三者面談時に保護者に事前・事後学習の掲示発表をした。

総合的な学習の時間 「福祉体験学習」

相模原市立新町中学校



単元（題材）目標

- 探求的な学習の学びの基礎となるスキルを体得させる。
- いのちの体験的・実践的学習を通して、課題解決能力を育成する。
- 福祉の取り巻く現状・問題の探求から、よりよい福祉とは何かを考えることのできる生徒の育成を目指す。

（1）実施時期

令和元年5月28日（火）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年 164名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第1学年職員

外部講師：相模原市社会福祉協議会



（4）実施内容

- 聴覚障がい者とのコミュニケーション(手話)
- 聴覚障がい者とのコミュニケーション(要約筆記)

（5）成果

- 手話に興味を持ち、手話で簡単な挨拶や自分の名前を伝えられるようになった。
- 限られた時間ではあるが、手話体験を通して、聴覚障がい者に対する理解を深めることができ、関心を持った生徒からは「もっと勉強したい」という声も聞かれた。
- 「話せることが当たり前と考えていたが、当たり前に行っていることに感謝の気持ちを持ち、自分に可能な活動から始めてみたい。」という感想が聞かれた。

（6）その他

- 聴覚障がい者の理解にとどまることなく、自分たちの周りで生活する全ての人が理解し合い、協力して安心した生活が送れるよう考えていくことの重要性を理解させることができた。
- 今後も福祉体験学習を通して障がい者への理解を深めていきたいと考えている。

総合的な学習の時間 「ゼミ学習『手話を学ぼう』」

横須賀市立神明中学校



単元（題材）目標

- 自ら意欲的に課題に取り組み、長期的・継続的に努力しようとする姿勢や心がまえを身につける。
- 手話を通して障がいについての理解を深めるとともに、お互いを大切にする思いやりの心を育てる。

（１）実施時期

令和２年２月中旬

（２）対象（学年等・人数）

第２学年 21名

（３）指導者（教諭・外部講師等）

外部講師：社会福祉法人 横須賀市社会福祉協議会 ボランティアセンター 2名
横須賀手話サークル 8名

（４）実施内容

- 第１回：聴覚障がいについて
 - ・聴覚障がいの方が日常生活の中で困っていること
- 第２回～第９回：手話体験
 - ・手話に関する基本的な知識の習得
 - ・簡単な会話（あいさつ・自分の名前等）
 - ・簡単な会話に使える手話の練習
 - ・ゼミ学習の発表のための手話練習
（手話についての説明を言葉と手話を交えて行う
【パブリカ】を音楽に合わせて手話で練習）
- 第１０回
 - ・学習内容の発表と振り返り



（５）成果〈子どもの学び〉

- 聴覚障がい者に対する知識を学び、聴覚障がい者の方に対する理解を深めることができた。
- ゼミ学習の発表を通して、同じ中学生と保護者に聴覚障がいについて、手話について発表することができた。
〈生徒の感想抜粋〉
 - ・今回手話を通して聴覚障がいの方がどのような気持ちで生活しているのかを知る機会になった。
 - ・手話は、言葉と同じくらい大切な、人と人をつなぐコミュニケーションの手段なのだと実感した。

（６）その他

- ゼミの発表を行うことで、学年の生徒・保護者に知っていただく機会を設けた。

総合的な学習の時間 「福祉体験『手話』」

鎌倉市立玉縄中学校



単元（題材）目標

- 福祉が「全ての人の幸せ」という意味であることを理解し、福祉活動の意味や役割に関心を持つ。
- 福祉の実践意欲を向上させ、身近な地域で福祉活動に積極的に関わろうとする態度を身につける。
- 障がい者や認知症への理解を深め、地域社会の一員として共生社会を目指す態度を身につける。

（1）実施時期

令和元年10月23日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年 希望者50名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第1学年所属2名

外部講師 社会福祉協議会職員3名

（4）実施内容

①「聴こえない」ことを体験する。

- ・ゲーム形式で「聴こえないのは誰？」を行い、外見ではわからない障がいであることを体験する。

②不便なことを知る。

- ・講師の体験談を聞き（ミニ講演）、補聴器とはどのようなものか、また聴こえないことをカバーできるように様々な工夫された日常生活用具を実際に使ってみて、どのように役立っているかを知る。

③基本的な手話を学び、使えるようにする。

- ・ミニ講演の中で、日常よく使われる手話「挨拶」「日常用語」「数字・指文字」などを学ぶ。
また、指文字を事前学習で学んだ生徒数名が自分の名前を講師や他の生徒の前で披露し、講師がそれをフォローした。全員の名字の表現の仕方を一緒に行った。
- ・事前に「知りたい手話」を募集して伝えていたものを講師が取り上げてくれ、学校や授業、部活に関わる手話を学ぶ。「手話を習得するのにどれくらいかかるか」などの質問が出ていた。「いろいろな人がいる。お互いに理解し合えるようにすることが大切」であるということを学ぶ。

（5）成果〈子どもの学び〉

○体験談や日常生活の工夫を知ることによって聴覚障がいがあるとはどのようなことを学ぶ機会となった。

○指文字や手話で自分の名前を表現し、日常生活に関わりの深い手話を学ぶことができた。
また、世界の手話に関することを知ることができた。

〈生徒感想・お礼の言葉より〉

- ・聴覚障がいのある人は、いろいろなことに注意しなくてはならず、大変だと思いました。
私達も今回の学習を自分が困ったときに活かしたいし、困っている人のために活かしたいと思いました。

（6）その他〈子どもの感想〉

○事前指導で、手話の歴史や身の回りの手話についての概要を簡単に学ぶ場面を設けた。

○指文字などは事前に50音表を配布して、自分の名前を表現してみるなど、手話に対するイメージを膨らませるようにした。

総合的な学習の時間

「福祉体験 聴覚障がい者の理解と手話体験グループ」



平塚市立中原中学校

単元（題材）目標

- 互いの幸せを考え、互いを尊重する姿勢を身につける。
- 人と共感する力を身につける。
- 社会的有用感、自己肯定感を得ることにより、自尊感情を育てる。

（1）実施時期

令和元年11月6日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年18名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：1名

外部講師：聴覚障がいを持つ平塚市社会福祉協議会ボランティア講師1名
手話通訳者1名 手話サークル七夕の会 2名

（4）実施内容

- 事前指導（指導者：1学年職員）
社会福祉協議会より事前に配付された、「耳の聞こえない人たちのことを知ろう（手話テキスト）」を使用し事前学習を行った。
- 社会福祉協議会ボランティアによる授業（指導者：社会福祉協議会ボランティア）
聴覚障がい者の先生を中心に授業が行われた。
 - ・耳の聞こえない人の障がいについて
 - ・耳の聞こえない人の生活について
 - ・耳の聞こえない人とのコミュニケーションについて
 - ・手話で自己紹介
 - ・手話でいろんな言葉表現
 - ・手話でフリートーク
 - ・知りたい手話質問コーナー
 - ・手話以外の質問コーナー



（5）成果〈子どもの学び〉

- 聴覚障がいを持つ兄弟や友人がいる生徒がいたため、実際の生活場面や一緒に遊んだときの様子を先生と一緒に話し合うなど、聴覚障がい者に対する理解を深めることができた。また、自分が使ってみたい手話を先生から教えていただき、簡単な手話を使って楽しく会話することができるようになった。

（6）その他

- 中原中学校では、1年生は総合的な学習の時間に福祉体験を行っている。生徒は、福祉新聞を作成しそれぞれの体験をまとめる。

総合的な学習の時間 「福祉体験学習における分科会」

南足柄市立足柄台中学校



単元（題材）目標

○障がいがある当事者と直接触れ合う体験を通して、「障がい者」と「健常者」という分け方ではなく、同じ社会のなかで共に生活している人間であるという「当事者性」の意識づけを図り、福祉を身近なテーマとしてとらえる。

（1）実施時期

令和元年11月6日（水）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年40名、教員2名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭 第1学年所属2名

外部講師 手話サークルひまわり8名、南足柄市社会福祉協議会職員1名



（4）実施内容

- ①自己紹介～誰が聞こえる人か？～：生活の音を考える
- ②聴覚障がい者の生活：聴覚障がい者の生活をクイズ形式で学ぶ
- ③聴こえない人と話をする方法：多様なコミュニケーション方法を知る
- ④ろう者の話を聞く：手話やジェスチャーを使って話す
- ⑤伝えてみよう：生徒がジェスチャーで伝えあう
- ⑥グループワーク：手話で話そう
- ⑦質疑応答：災害の時にはどうするか。手話は新しくなるのか。などについて

（5）成果〈子どもの学び〉

- 聴覚障がいは、見た目では分からない障がいであることを理解できた。
- 手話は難しいというイメージを持っていたが、筆談やジェスチャーを通して、コミュニケーションをとるには様々な方法があるということを知ることができた。
- 災害時等には、自分たちから積極的に関わっていく態度を養うことができた。
- グループ別で手話を教えてもらうことで、自分の興味のあることを手話で表すことができ、手話によるコミュニケーションの楽しさを知ることができた。

（6）その他〈子どもの感想〉

- 総合的な学習の時間の福祉教育の一環として、グループに分かれ実施した。

特別活動（学級活動） 「手話・アイマスク体験」

横浜市立南が丘中学校



単元（題材）目標

- アイマスクの体験を通して、視覚に障がいがある方の生活および、手話体験を通して聴力に障がいがある方の生活を理解し、ハンディキャップのある人々への一層の理解を深め「共に生きる心」を育てる。
- 手話・アイマスク体験を通して、相手の立場に立って考える「思いやりの心」を育てる。

（1）実施時期

令和元年5月24日（金）

（2）対象（学年等・人数）

第1学年 159名

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第1学年所属 8名

外部講師：ボランティアサークル「エスポアール」（手話）8名、「つばさ」（アイマスク）10名
社会福祉協議会の方 2名

（4）実施内容 *②のAとBを交代で行う

①講演会：「聴覚障がい、視覚障がいについてとこれから行う学習について」（学年全体）

- ・聴覚障がいの方が困ることについて、講師の方から話を聞く。（手話通訳なし）

②A 手話体験：手話の実践（各学級）

- ・各学級に講師4名（「エスポアール」の方）に手話通訳していただきながら【簡単な会話（あいさつ、自分の名前等）、手話に関する基本的知識、指文字による五十音の表し方、所属している部活動の表し方】を聞き、実践する。

B アイマスク体験：段差やスロープを歩く体験や誘導の仕方（各学級）

- ・生徒二人一組でアイマスクをした生徒を、片方が腕を支えながら先導して校舎を回る。途中で水を飲んだり、階段を上り下りしたりすることも行う。

③講師の方々に全体でお礼（学年全体）

④振り返り（各学級）

- ・講話や体験を通してわかったことや考えたこと、体の不自由な方も暮らしやすい社会を今後つくるためにどんなことを考えていけばよいか、自分たちにもできることは何かを考えた。

（5）成果

- 実際に手話を実践してみることで、聴覚障がいの方とのコミュニケーションに対する理解を深めることができた。また、今まで知らなかった世界を知ることができ、自分たちが住む地域において、聴覚障がいや視覚障がいの方を意識するようになった。

〈生徒感想 一部抜粋〉

- ・聴覚障がいの方は、健常者との見分けが難しいことがわかった。誰であろうと困っている人がいれば戸惑わずに、声をかけて助けたいと思った。

特別活動（学校行事） 「創立 50 周年記念式典 全校合唱」

川崎市立西生田中学校



単元（題材）目標

○記念式典全校合唱に関する取組を通して、西生田中学校と地域社会の一員としての所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、協力してよりよい学校生活、地域生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

（1）実施時期

令和元年 11 月 16 日（土）

（2）対象（学年等・人数）

第 2 学年約 20 名（有志による）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭（手話が若干できる）1 名



（4）実施内容

○50 周年記念式典全校合唱（さだまさし作詞作曲「いのちの理由」）の際に、2 年生有志約 20 名が、インターネット上の岩崎宏美さんが手話を行いながら歌う動画を参考に練習した。

○当日は、川崎市長、市議会議長はじめ国政、県政、市政議員、川崎市教育長はじめ教育行政関係者、地域学校協力者、市内中学校長、保護者等、約 250 名の参観者の前で披露した。

※本校は、平成 30 年度・令和元年度に川崎市の人権尊重教育の研究推進校に指定されており、研究の取組の一つとして企画した実践である。

（5）成果

○参観された多くの方々から賞賛された。生徒のみならず、参観されたの方々にとっても、人権尊重の意識向上の機会となったと考えられる。

特別活動（学校行事） 「手話合唱」

清川村立緑中学校



単元（題材）目標

- 全校生徒で協力し、意欲的・積極的な活動実践を通して、自己表現力を高める。
- 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決しようとする資質や能力を育成することを目指す。（総合的な学習の時間との関連）
- お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することの重要性を理解し、公正・公平な社会の実現に努める。（道徳教育との関連）

（1）実施時期

令和元年6月～10月

（2）対象（学年等・人数）

全校生徒 64名

（第1学年25名、第2学年18名、第3学年21名）

（3）指導者（教諭・外部講師等）

本校全教職員 18名 外部講師 愛川町手話サークル 4名



（4）実施内容

- 「全校生徒による手話合唱」【昨年度に引き続き2年目の実践】
 - ①手話講演会の開催
 - ・聴覚障がいの方から日常生活の様子など伺い、簡単な手話を練習した。
 - ②合唱曲選定と手話練習
 - ・本校の生徒の実態や取組に合った合唱曲を音楽科が選び、その曲の手話を愛川手話サークルの方々にやっていただきビデオに収録した。
 - ・今年度の合唱曲は「たしかなこと（作詞・作曲 小田和正）」ビデオを使って、まずは教職員全員が手話を覚え、生徒たちへの支援がスムーズにできるようにした。
 - ・3年生のパートリーダーを中心に、音楽の授業や休み時間等を使い、パート別練習、全体練習と形を変えながら合唱と手話の練習を繰り返し行った。練習の最後には、パートリーダーが課題や次の練習までの目標を示し、よりよい表現につながるような確認を毎回行った。曲紹介をする代表生徒たちは、手話ができる教師の指導を仰ぎ、休み時間等を利用して手話による曲紹介の練習に励んだ。
 - ③手話合唱の披露
 - ・10月19日の「文化発表会」（本校体育館）、10月26日の「厚木愛甲地区中学校文化連盟芸術祭」（厚木市文化会館大ホール）の2日間、全校生徒による手話合唱を披露した。

（5）成果〈子どもの学び〉

- 全校生徒で表現する手話合唱の達成感はとても大きく、2年目の取組においても大きな成果を残したと判断している。
〈生徒感想〉
 - ・一曲全部の手話を覚えるのが大変だった。でも、できたときは達成感がすごかった。
 - ・手話をすると全校の一人ひとりの生徒が一つになれた気がした。

（6）その他

- 次年度も継続して、生徒たちによる手話合唱に取り組んでいきたいと考えている。